

ふるさと再発見

『南信州より望む 南アルプス四季の日の出』

もうすぐ出版

都会から遊びにきた友人をちよつと郊外に連れ出すと、その鄙びた光景や、目の前に迫る天龍川、そこから立ち上がり、はるか南アルプスに遠く続く山々の景色に、強い感動を受けるという。地元に住んでいると、当たり前前の風景になってしまい、その素晴らしさに気づかないことが、風景に限らずママある。

この写真集『南信州より望む 南アルプス四季の日の出』の著者千国正明さん（63歳）は阿智村伍和地区の小

高い山の上に住んでいる。本人の言葉を借りれば「伍和の里は、山裾に広がる農村風景と共に、南アルプス・中央アルプス・南信州の山々が一望できる小高い丘となっている。丘に立って、南信州の光と風にしばし身をまかせ、心安らぐひと時を過ごしてみたいかがだろうか」ということになる。

毎日美しい風景を見てみると、慣れて見えなくなる人と、その微妙な移ろいが見えてきて、ますますその風景

山々の名前などの簡単な地域ガイドも兼ねている。盆明けからは平安堂書店など本屋にも並ぶ予定だが、少しでも早くみたいと言う方は、080・5144・8827 千国さんの携帯まで連絡を。

(嶋)



サンプル（見本）を手にする千国さん

「これらが同じ撮影点からの写真か、同じ時刻の写真か！」と驚く。そして、すべてが美しい。「この写真集が地域再発見、地域おこしの小さな発火点になればうれしい」と千国さん。本書はA4判オールカラー、162頁。本体価格2000円。撮影の詳細なデータ、